名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023 年 2 月 24 日

学部・学科名　外国語学部・日本語学科
世界教養学部・国際日本学科

担当教員氏名　坂本　正

1．区分	中期留学　・　語学研修　・　(海外実習)
2．プログラム名称	釜山外国語大学校日本語教育実習
3．渡航先国名	韓国（オンラインにて実施）
4．派遣期間	2022 年　9 月　1 日（木）～ 2022 年　9 月　14 日（水）　14 日間
5．派遣先教育機関名	釜山外国語大学校
6．参加学生数	5 名
7．派遣目的	釜山外国語大学校の学生を対象として，日本語授業の見学，オンライン教壇実習を行い，あわせて，異文化体験や釜山外国語大学校の学生との交流の機会をもつ。
8．派遣内容	① 様々なレベルの授業見学（釜山外国語大学校の日本語授業） ② 教案指導 ③ オンライン実習 ④ 実習報告書の作成
9．成果	今年度もコロナ禍ということもあり、オンラインによる日本語教育実習になった。オンラインでの日本語の実習ということで、参加学生はそれぞれ様々な工夫をして日本語教育を楽しく、効率的に行っていた。釜山外国語大学校の指導教員のフィードバック、コメントなどを十分に取り入れて、実際に行った教案を再度修正してもらい、２週間にわたる日本語教育実習の振り返りと修正教案を毎年報告書の形で残すことにしている。座学でしか知らなかった日本語教育も実際に日本語学習者を相手に教えてみて、学ぶ点が非常に多いことを参加学生は全員気づいたと思う。この実習の体験を今後、各自の将来に大いに生かしてしいと願っている。
１０．備考	

以上

オンライン日本語教育実習を体験して

私は夏休み期間の９月前半に、二週間の間、釜山外国語大学の日本語教育実習に参加しました。私は高校生の頃から日本語教師という職業に興味があったのですが、大学に進学してから実際に日本語教育の授業を履修したり、日本語教師の実際の現状について自分で調べたりしていくうちに自分が本当に日本語教師を目指したいのかが分からなくなっていきました。そこで今回の実習で生の日本語教育の現場を見て、実際に自分でも日本語教師の立場で授業に携わることで改めて自分の進路について考えてみたいと思ったのが、この日本語教育実習に参加しようと思った理由です。しかし参加をしてみると、自分が想像していた以上に大変なものでした。今回は実際に実習を行って印象に残っていることについてお話ししていきます。

まず初めに私が印象的だったことは、授業の事前準備の大変さと重要さです。釜山外国語大学では指定された教科書がなく、「can-do シラバス」と呼ばれるシラバスを基に授業が作成されます。この「can-do シラバス」とは、その授業内で「〇〇をできるようにする」という目標をあらかじめ立てておいて、そこに向かって授業を進めていくというものです。この目標を達成させるためにどのような活動をするのか設定しなくてはいけないのですが、その活動内容が果たして本当に授業目標に到達するために最適なものであるのかを考える必要があります。また単に活動内容と言ってもスピーキング、リスニング、ライティングなどと一口に言えるものではありません。例えばスピーキングであれば、それは学習者同士で会話を行わせるのか、１人ずつ全員の前で発表をさせるのか、話す内容はこちらが用意したものを使用するのか、学習者自身で用意させるのかなど考えなくてはいけない要素がたくさんあります。そしてそれらの要素を組み合わせて最もゴールに近い活動内容を作らなくてはいけません。次に準備しなくてはならないことは、使用する教材を決めることです。私は B1-1 という中級クラスを担当したのですが、第一回目の授業では「薬のパッケージから必要な情報が読み取れるようになる」という授業目標を基にリーディングの授業を行いました。そこで私は実際に日本の薬局で手に入れることができる市販薬の裏側に記載されている薬の情報と、そこに書かれている単語をまとめた単語表を準備していました。しかし、釜山外国語大学の担当指導員である堀先生との事前打ち合わせで、市販薬の教材の方は「情報が多く、日本語中級レベルの学習者にとっては難しすぎるため必要な部分以外切り取った方がいい」、単語表の方には「学習者にとって簡単すぎるのでもう少し難易度の高い語彙を入れるか、オノマトペなどの表現を入れるといい」という２つのアドバイスをいただきました。市販薬の教材に関しては、実際の薬の裏面をそのまま使用していたため自分で編集して一から作り直す必要がありました。また単語表の方も、その市販薬から引っ張ってきた語彙しか載っていなかったので、授業のテーマに沿っているかつ中級レベルの

必要な単語を自分で考えて単語表を作成しなくてはいけません。あらかじめ用意された教材をただ使用するのではなく、果たしてそれが学習項目、学習者のレベルに最適なものなのかどうかなど考えなくてはならない要素がたくさんあり、またそれに近づけるためには必要に応じて自分で新たに作らなくてはならないことを知りました。また今回の授業準備を通して、考えれば考えるほどアラが見つかり準備の終わりが見えなくなっていき、自分なりに準備には膨大な時間をかけて行ったつもりですが、それでも改善の余地が見つかることに驚愕しました。私は普段からプレゼンテーションの授業などでも原稿などは用意せずに即興で行うタイプなのですが、授業という場面では即興のものは全く通用しないのです。周到な準備を無しに、授業を行うことはできないと学びました。

２つめに印象に残っていることは、実際に授業を行う上での難しさです。一番初めに直面した問題は時間配分のミスです。事前にきちんと時間配分は行っていたのですが、オンラインだったこともあり初めの出席確認に想像以上に時間をとってしまい、それ以降の予定がどんどん狂っていきました。そのため授業内で語彙を確認した後に学生にそれらの語彙を使用した問題を解いてもらい提出させるという活動内容があったのですが、その時間を削らなくてはならなくなりました。またインターネットの不都合により、問題を解く時間がなくなりそれを次回の授業に持ち越すなど、事前の準備とは違うものとなってしまいあまり満足のいく授業を作ることができませんでした。自分なりに準備をしてきましたがそれが不十分であったこと、思い描いていた通りの授業が100%の完全な状態でできなかったことに悔しさが残り、いかに臨機応変に対応できるかが重要であることに気づかされました。

最後に、大変なことがたくさんあった実習ではありましたがその分得たものもとても大きかったと思います。私は最後の授業の際に、担当したクラスの学生の方々何人かとインスタグラムの交換を行ったのですが、その中の１人の方から後日あるメッセージをいただきました。そこには「先生と過ごした２週間は楽しくて、とても勉強になる時間でした。これからも頑張ってください。私も日本語の勉強頑張ります！」と書かれていました。そのメッセージを見たときに、自分の努力が学生にも伝わっていた喜びを感じ、胸が熱くなりました。今回の実習では、実際の日本語教育の現場で授業を行うという新鮮な経験への純粋な楽しさだけでなく、最後まで何かをやり遂げたという達成感、またそれによって生まれた自信が最大の成果だと思います。実習に対して自分への反省点や、後悔の残る点もありましたが、それも全て含めこの実習で得ることができたものだと感じます。今後、自分の将来がどうなるか未だ明確ではありませんが、どの道に行ったとしてもこの経験は私の将来に生きると思える充実した実習でした。最後に、このように素晴らしい機会をくださった先生方、お忙しい中お時間を割いて指導してくださった担当の先生、一生懸命授業についてきてくださった学習者の皆様、本当にありがとうございました。

オンライン日本語教育実習を体験して

長いようで短かった2週間の釜山外国語大学日本語教育実習。たくさんの学びを得、成長することができた非常に素晴らしい経験をさせていただきました。当初は韓国現地での対面開催と聞いていたのですが、やはりコロナウイルス蔓延が懸念されるということで惜しくも去年に引き続きオンラインでの実施となりました。日本語教育現場に馴染みのなかった私にとって、このプログラムに参加した最大の目的は実際の教育現場の空気感を知ることだったのでオンライン開催と聞いて応募期間直前まで参加の是非に頭を悩まされました。しかし、今この2週間を振り返って心から参加してよかったと言えます。本文では釜山外国語大学日本語教育実習を通して思ったことや感じたことについてお話ししたいと思います。

私が担当したクラスはB1-2で、扱ったトピックは「からだと健康」でした。2週間の実習中実際に私が授業を行ったのはたった2回でしたが、その2回の授業を用意するために何十時間もの時間を要しました。実習自体は9月1日からでしたが、担当の先生とコンタクトをとり始めたのは8月中旬あたりです。はじめの頃は授業に対するイメージが湧かず苦労しました。特に釜山外国語大学では一般的な教育機関などとは違いCan-do statementを採用しており、決まった教科書や文法項目などがありません。今まで自身が受けてきた言語教育を例にとっても教科書なしに進められた授業というのは珍しく、何にも縛られない自由さがこの実習の一番の困難だったと言っても過言ではありません。しかしながら、担当の先生とのやり取りの中で得たアイデアやヒントを基に何か一つでも授業の手がかりが掴めると、そこから「こういう方法もあるのではないか、もっとわかりやすい導入はできないか」などと次々と想像が膨らむ瞬間が非常に楽しく、刺激的でした。

指導いただいた中で、先生が最も大切にしていた点は「楽しめるかどうか」です。授業の内容を詰める過程で、学習者が楽しめるかどうか何度も問いかけられた記憶があります。特に今回扱った「からだと健康」というトピックはまだ若い私たち大学生にとって母語でさえあまり考える機会のない話題です。それをいかに学習者に身近なものとして興味をもってもらうかは授業の内容や活動が楽しいと思ってもらえるかどうかにかかっていると感じました。実際に私の授業でも学習者がぼーっとして飽きてしまうことがないように活動のやり方や時間配分を考慮したりクイズを取り入れてみたりと試行錯誤しました。その結果、参加してくださった学習者の方々の協力もあり、オンラインといえど和気あいあいとした雰囲気のなか授業が行えたと思っています。

しかしながら、いざ授業を終え、改めて自身の授業を見つめなおしてみると反省点もたくさんあります。「楽しい」と思ってもらえるような授業づくりはもちろん大切なのですが、それと

同時に「学習者がこの授業を通してどんな発見や学びを得ることができるか」と常に考える視点も持ち合わせていなければならないということを強く感じました。今まで指導経験のない私にとって、授業を行う前は100分という時間が埋まるのかどうかが一番怖く思う点でした。そのため、「100分間の楽しい授業を行うんだ」ということに頭がいっぱいいっぱいになってしまい、その授業の先に学習者が得られるものについて考える余裕がなかったと反省しています。特に釜山外国語大学では上でも述べたように具体的な導入文法や単語の項目がありません。自身が設定するCan-do目標が授業の軸となります。この目標をしっかりと立て、授業を進める上で見失わないことが学習者の学びを考える上で非常に重要になってくると思いました。実習期間中は他の実習生や先生方の授業を見学する時間が多く設けられていましたが、先生方の新しい学び・発見に気が付かせてくれる引き出しの多さには目を見張るものがありました。もちろん培ってきた経験が違うと言えばそれまでなのですが、それでももしまた自分が教壇に立つ機会があれば授業を受けた先の学習者についてまで考えられるようでありたいと思いました。

この実習に参加するまでは日本語教師という職業を自分の将来の選択肢のひとつに入れることがなかなかできませんでした。大学で日本語教育について学んではいるものの、それがどのように現場で実践されているのかイメージできなかったからかもしれません。しかし、今回でその考えに変化があったと感じています。もちろん楽しかったことばかりではありませんが、困難や反省も含めてこの実習に参加しなければ得ることができなかったかけがえのない経験を得ることができました。今後自分がどのような道に進むのかは明確ではありませんが、どんな道に進むとしてもここで得た学びや成長を生かしていきたいと思います。

最後になりますが、実習を開催するにあたってご尽力くださった方々、貴重なお時間を割いて親身に指導をしてくださった担当の先生、授業を見学させてくださった先生や実習生のみなさん、一生懸命授業に参加してくださった学習者のみなさん、一緒に悩んで相談に乗ってくれた友達、この実習に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。